

# 地方創生推進交付金 の取組成果

# 地方創生推進交付金(内閣府地方創生推進事務局)

## 【事業概要・目的】

○本格的な事業展開の段階を迎えた地方創生について、更なる深化のため、地方創生推進交付金により支援

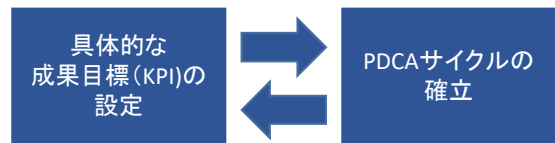
- ・地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援
- ・KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援
- ・地域再生法に基づく法律補助の交付金とし、安定的な制度・運用を確保

【交付率】1/2

【事業期間】先駆タイプ:5年 横展開タイプ:3年

【事業費上限】先駆タイプ:6億円(交付額ベース3億円)

横展開タイプ:2億円(交付額ベース1億円)



# 地方創生拠点整備交付金(内閣府地方創生推進事務局)

## 【事業概要・目的】

○地域経済の活性化という喫緊の課題に対応するため、地域の観光振興や住民所得の向上等の基盤となる先導的な施設整備等を支援

- ・地方公共団体の行う地方版総合戦略に基づく自主的・主体的な地域拠点づくりなどの事業
- ・地域の所得や消費の拡大を促すとともに「まち」の活性化につながる先導的な施設整備等を支援
- ・KPIを伴うPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組

【交付率】1/2

【事業費上限】上限額なし※事業費が4億円(交付額2億円)を超える場合は有識者審査を行う

# 鳥取県の地方創生関係交付金の活用成果(KPI達成度)

推進交付金では全ての事業においてKPI目標を(1つ以上)達成し、16事業のうち4事業(25%)は設定したすべてのKPI目標を達成。拠点整備交付金でも施設等整備後の事業効果が現れている。

## ○地方創生推進交付金

H28年度
実績額: 282,549,082円
事業数: 7事業
KPIを1つ以上達成した事業の割合は100%
KPIをすべて達成した事業数は1事業

H29年度
実績額: 524,216,007円
事業数: 10事業(継続事業含む)
KPIを1つ以上達成した事業の割合は100%
KPIをすべて達成した事業数は3事業

H30年度
実績額: 536,258,551円
事業数: 16事業(継続事業含む)
KPIを1つ以上達成した事業の割合は100%
KPIをすべて達成した事業数は5事業

H28~H30年度
実績額: 1,343,023,640円
事業数: 16事業
KPIを1つ以上達成した事業の割合は100%
KPIをすべて達成した事業数は4事業

## ○地方創生拠点整備交付金

H29年度(H28年度補正)
実績額: 1,042,407,693円
事業数: 6事業
【H29年度】KPIを1つ以上達成した事業の割合は33%
【H30年度(交付金期間終了後)】KPIを1つ以上達成した事業の割合は67%

H30年度(H29年度補正)
実績額: 123,456,052円(次年度繰越分を除く)
事業数: 1事業
1年目は目標値0と設定、R1年度に事業繰越を行い、9月に整備完了したところ。今後事業効果が見込まれる。

※1年で効果発現を見込まず、目標値0としているKPIが2017年度は7割

## 取組事例① 梨で「儲かる」「人が集う」地域産業活性化プラン

横展開タイプ(事業期間3年:H28年度~H30年度)

交付金実績額 ◇H28年度:35,311,172円 ◇H29年度:14,493,133円 ◇H30年度:16,031,459円

### インバウンドが販路を創るプロジェクト

交付金充当額: 315千円

香港小売店での県産品の定番化  
イオン香港で梨の試食PR販売を継続的に実施。イオン香港全店舗での取り扱いとなるなど、梨の定期販売へ

### 東アジア各市場に合わせた知名度向上、輸出促進活動

新甘泉の輸出拡大が期待される台湾で、メディア向けプロモーションを実施

販路拡大へ向けた高値販売の仕組みづくり  
高級果実店での県産品フェア開催



### 経営構造、働き方の改革が人を呼ぶプロジェクト

交付金充当額: 3,434千円

#### 県内果樹産地の人材育成

・農業・食品産業技術総合研究機構との連携による農業大学校学生等のインターンシップ実習【実績】H29年度:高校生3名  
H30年度:農業大学校生3名  
・農研機構職員を講師としたセミナー開催

#### 「スーパー農林水産業士」の認定

☆本県独自の技術認定制度  
長期インターンシップ及び高度専門資格の取得プログラムによる、実践的な知識・技術習得を可能とし、県内就業を促す

【実績】H29年度:実践生徒数10名認定生徒数2名  
H30年度:実践生徒数12名認定生徒数8名

### 新品種・新技術が地域を引っ張るプロジェクト

交付金充当額: 61,564千円

#### 梨品種の栽培面積拡大に向けた新改植、施設整備などの支援

高単価が期待できる新品種の生産拡大や省力化技術(ジョイント栽培等)の確立、普及

#### 「鳥取ナシ育種研究サイト」の運営

☆H29年4月7日開所  
・農研機構で育成した新品種候補を定植し、新品種開発を推進  
・生産者等を対象としたセミナーを開催



- ◇梨全体の栽培面積が減少する中、「新甘泉」を中心に33ha増加
- ◇梨新品種の植栽が進むに伴い、生産量も増加し、販売額は毎年1億円ずつ増加している。H30年には6.4億円に達した。
- ◇業界関係者が選ぶ2019年果実ランキングで第10位(梨では1位)

K	◇果樹新品種(梨)の作付面積	H29年度17,000a ⇒ H30年度20,300a(目標値:21500a)	3,300a増
P	◇果樹新品種(梨)の販売額	H29年度291,000千円 ⇒ H30年度637,000千円(目標値:560,000千円)	346,000千円増
I	◇梨に係る新規参入者の人数(梨のスーパー園芸団地に係るもの)	H27年度0人 ⇒ H30年度3人(目標値:14人)	3人増



### 今後の取組

※H30年度で交付金計画3年間で終了し、R1年度から新しい3年間の計画で交付金採択済み

- ・引き続き、農研機構と連携した育種ほ場の管理を行うとともに、県内果樹産地の人材育成等に必要な取り組みを行う。
- ・「二十世紀梨」の再興に向けた支援

など

## 取組事例② ~「新たな空のステージ」への挑戦~「空の駅」推進事業

横展開タイプ(事業期間3年:H28年度~H30年度)

交付金実績額 ◇H28年度:18,220,113円 ◇H29年度:26,980,897円 ◇H30年度:31,827,333円

### H28補正 拠点整備交付金の活用

【交付金名】鳥取砂丘コナン空港交流創出整備事業

#### 【事業内容】

☆コナン空港と鳥取港のツインポート化に向けたアクセス道路整備⇒H30.3.10かっこ空港ロード開通

☆空港機能強化に向けた国内線及び国際線ターミナル一体化整備⇒H30.7.28空港ターミナルビル一体化グランドオープン



### 空の駅

交付金充当額:69,509千円(3年間)

#### ①情報の拠点

空港利用者への観光・二次交通の案内、外国人向けの通訳・外貨両替サービスの充実のため、空港コンシェルジュを配置

#### ②観光の拠点

☆ツインポート間や鳥取砂丘等の周遊を促進するため、空港周遊バスの運行を支援



☆空港レンタサイクルの試験導入(令和元年度は鳥取空港ビル株が自主事業として導入)

#### ③賑わいの拠点(空港)

多彩なイベントの充実

▼H30年度実施▼  
星空観察会、カニ汁無料配布、県警音楽隊×東高書道パフォーマンス、クリスマスイベント、ひなまつりコンサート等

### ツインポート化

交付金充当額:7,517千円(3年間)

#### ①賑わいの拠点(鳥取港)

空港一体化グランドオープンを機に鳥取砂丘コナン空港と鳥取港の両港で連携イベントを開催⇒鳥取空港×鳥取港ツインポートフェスタ  
※交付金充当外で「鳥取砂丘ビジターセンターオープンイベント」「鳥取かにフェスタ」「米と肉のフェア」等も行った



名探偵コナン関連のイベントも開催し、多くの人が空港を訪れた！  
スタンプラリー:14,598組来場(前年比2.3倍)  
ナゾ解きラリー:10,952組来場(前年比2.0倍)

K	◇空港利用者数(鳥取砂丘コナン空港・米子鬼太郎空港)	H27年度1,014,443人⇒H30年度1,484,300人(目標値:1,100,000人)	469,857人増
P	◇1人あたり観光消費額	H27年27,250円 ⇒ H30年28,516円(目標値:28,000円)	1,266円増
I	◇外国人宿泊者数	H27年103,430人 ⇒ H30年194,730人(目標値:138,338人)	91,300人増



### 今後の取組

※H30年度で交付金計画3年間で終了し、R1年度から新しい3年間の計画で交付金採択済み

- ・新たな二次交通対策として、総合ナビゲーションサービスを活用した移動情報の提供(試行実施)
- ・多彩なイベント実施に加え、空港を発着し空から観光地を鑑賞する「山陰海岸ジオパーク遊覧飛行」や「ANA貨物コンテナを改装した『トロッコ列車』での空港探検ツアー」などの体験型イベントも開催
- ・「子どもの遊び場整備」「コナン装飾の充実」等の利用客要望を反映するため、コナンをモチーフとしたキッズコーナーの整備を行う
- ・両港や砂丘に関する食・観光などを散策するための「ツインポート周遊マップ」を作成し配布

など 3



## 取組事例③ 名峰「大山」とともに生きる・鳥取県西部圏域の広域観光推進プロジェクト

先駆タイプ(事業期間5年:H28年度～令和2年度)

☆広域連携事業:鳥取県・米子市・境港市・日吉津村・大山町・南部町・伯耆町・日南町・日野町・江府町・倉吉市・三朝町・琴浦町  
 交付金実績額 ◇H28年度:23,917,015円 ◇H29年度:71,479,926円 ◇H30年度:78,326,281円

大山開山1300年祭

H30年度は関連イベントに約25万人が参加。前年度より約13億4600万円増の経済効果!

**魅力的な滞在コンテンツ、プログラムの開発・提供**  
 交付金充当額:86,529千円

**地域ならではの食の提供**  
 交付金充当額:14,025千円

**広域的誘客キャンペーン**  
 交付金充当額:73,653千円

観光資源の掘り起こし、磨き上げを行い、国内外へアピール  
 ☆自然や日本遺産のストーリーを一度に満喫できる大山古道  
 ☆水木しげるロードやほたる鑑賞など夜の観光の魅力創出

関係団体が連携し、圏域を周遊するコンテンツを創出  
 ☆謎解き宝探し ☆大山紅葉満喫ウォーク

春日大社「安綱・古伯耆展」開催へと繋げた刀剣・たたら  
 刀剣の魅力発信、「伯耆安綱のふるさと」のブランド化を推進

記念料理の提供  
 伯耆国「大山開山1300年祭り」記念料理を創作、観光客へ提供

地域民間が結集した「大山ブランド会」「大山時間」の創設  
 大山圏域の食や加工品の魅力を全国へPRし、販路拡大を推進

民間企業等と連携したPR活動を実施  
 ☆サントリープロダクツ(株)が「奥大山の天然水」「奥大山のブルーベリーヨーグルナー」等を発売  
 ☆宇多田ヒカルさん出演CMにより全国PR

広域観光推進団体「大山山麓・日野川流域観光推進協議会」設立の契機に



◇「大山の大献灯」

入場料を300円から1000円に見直すも、計6日間で約7,300人が来場。収益性向上。

◇「大山山麓の謎解き宝探し」(6市町村共同事業)

前年に比べ、クリア者数が増加(H30年:5,808人→R1年:6,179人)、1エリア1人辺りの平均消費額が約3,500円となり高い地域経済効果を生んだ。

◇「福万来ホテル乃国」

H29年からの取組によりホテル観賞来場者が前年の倍(H30年:2,200人→R1年:4,500人)となり、県外からのバスで1000人以上が来場、日南町の年間宿泊者数の約2割がこの期間に宿泊。



◇1300年祭の盛り上がりにあわせ、観光・商業・飲料・宿泊施設の整備、リニューアルが進展!

【大山町】大山参道市場(物産・ベーカリーカフェ)【民間】KOMOREBITO(複合観光案内施設)、エスプリ・ド・ラ・フォレ(オーベルジュ)

大山町内の観光地の入込が前年比で14.8%増(H29→H30)となるなど、地域レベルでは増加も

K P I  
 ◇観光入込客数 H27年10,440千人 ⇒ H30年9,646千人(目標値:10,860千人) 794千人減  
 ◇外国人宿泊者数 H27年103,430人 ⇒ H30年194,730人(目標値:138,338人) 91,300人増

### 今後の取組

- ・1300年祭のレガシーを活かした地域観光資源のさらなるPRや魅力向上の推進、インバウンドの受け入れ体制整備による、さらなる誘客
- ・より地域にお金が落ちる仕組みづくり
- ・情報発信サイト、ガイド育成、多言語対応化等観光地としての受入環境整備、収益性向上の取組、仕組みづくり

など

## 取組事例④ Catch the STAR 世界に誇れる星取県プロジェクト

横展開タイプ(事業期間3年:H30年度～R2年度)

交付金実績額 ◇H30年度:17,734,380円

鳥取県星空保全条例

H30年4月、星空の保全に特化した都道府県初の条例「鳥取県星空保全条例」を施行  
 ⇒投光器やレーザーの夜空への照射を原則禁止し、光害を抑制

**情報発信、観光誘客**  
 交付金充当額:15,512千円

**星空保全地域の地域振興**  
 交付金充当額:795千円

**星空を通じた環境教育の推進**  
 交付金充当額:1,427千円

PR大使の任命と発信

☆タレントの篠原ともえさん、宇宙飛行士の山崎直子さんをPR大使に任命、首都圏メディア発表会等を通じて情報発信  
 ⇒多数のメディアに取り上げられ、星取県の認知度UP!

星空観光メニューづくりの支援

☆星空を活用した観光メニューづくりを支援する補助制度を創設。  
 ⇒新たな観光メニューの誕生に繋がったほか、多数の星空関連のイベントや商品が誕生

「星空保全地域」鳥取市佐治町、日南町

☆特に美しい星空環境のある2地域を星空保全地域に指定、屋外照明の設置・使用方法等に基準を定めた  
 ☆星空を活用した地域振興(星空観察会や宇宙関連イベント)を支援

星空観察会での観察器具の貸出

☆移動式プラネタリウムの実施  
 ☆県で天体望遠鏡や双眼鏡を整備し、地域や宿泊施設等の星空観察会等で無料貸し出し  
 ⇒県民および観光客の星空観察の機会を創出!

◇星取県の認知度の高まりにより、「宙ツーリズム推進協議会※」のウェブサイトのトップページに、星取県の画像(鳥取砂丘の星空)が採用された!

※全国で星空・宇宙観光に取り組む自治体・団体・企業(約40社)により組織

◇星空保全地域指定を機に、地元団体主催の星空地域振興イベントが活発に行われている

◇三朝町スターウォッチング(H29～)は徐々に参加者が増加。雨天曇天対策により、ツアー催行率が30%から60%へ大幅に増加

K P I  
 ◇さじアストロパーク総利用者数 H29年度23,706人 ⇒ H30年度27,653人(目標値:24,706人) 1年間で3,947人増  
 ◇外国人宿泊者数 H29年140,530人 ⇒ H30年194,730人(目標値:156,942人) 1年間で54,200人増  
 ◇観光入込客数 H29年9,543千人 ⇒ H30年9,646千人(目標値:9,943千人) 1年間で103千人増



### 今後の取組

- ・星空保全地域を中心とした、美しい星空を守る環境づくりのさらなる推進
- ・移動プラネタリウムを導入し、県内の天文関係者等に貸し出して雨天曇天時や日中の星空イベント、学校の出前教室等に活用。・首都圏の若者女性を対象としたSNSキャンペーンでの盛り上がりから、引き続き発信力のある企業や団体等とのコラボを通じて認知度向上を図るとともに観光誘客へつなげる

など